

番号	121	しおどめ 潮塞 観音	
所在地	白石町福富		
災害別	大正3年(1914)高潮		
目的別	伝承	建立年	不明
特記事項	(参考) しおどめ 潮塞 観音古跡		



白石町福富の国道444号線沿いにある大正3年(1914)8月の高潮を伝えるしおどめ 潮塞 観音。その由来については堂内の説明板に詳しく記されているので引用する。

なお、もともと潮塞観音のあった場所に建つ「潮塞観音古跡」についても参考までに紹介する。

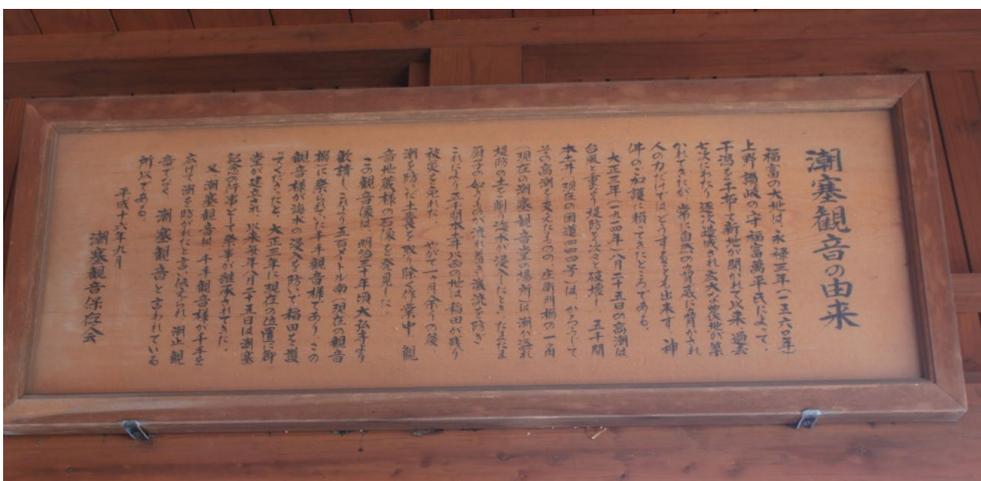
「潮塞観音の由来 福富の大地は、永禄三年(1560年)上野讃岐の守福富萬平氏によって、干潟を干拓して新地が開かれて以来、過去七次にわたり逐次造成され広大な農地が築かれてきたが、常に自然の脅威に脅かされ人の力だけではどうすることも出来ず、神佛のご加護に頼ってきたところである。大正三年(1914年)八月二十五日の高潮は台風と重なり堤防を次々と破壊し、五千間本



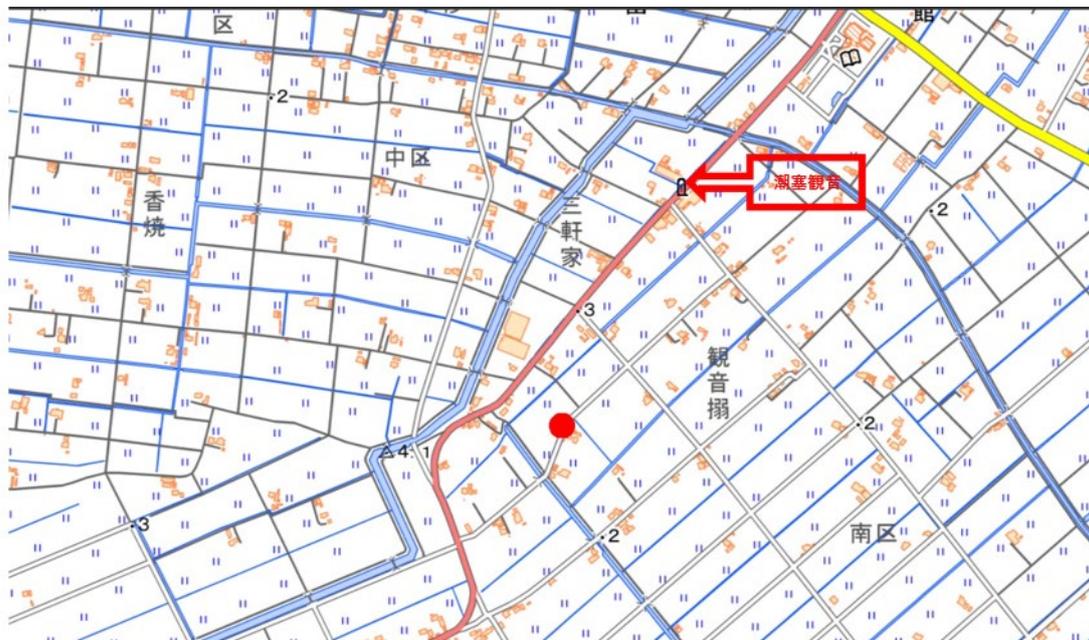
国土地理院電子国土 Web

土井（現在の国道四四四号）は、かろうじてその高潮を支えたものの庄衛門櫓の一角（現在の潮塞観音堂の場所）は、潮が溢れ堤防の土を削り海水が浸入したとき、たまたま厨子の如きものが流れ着き濁流を防ぎ、これにより五千間本土井以西の地は稲田が残り被災を免れた。やがて一ヵ月余りの後、潮を防いだ土嚢を取り除く作業中、観音地藏様の石像を発見した。この観音像は、明治三十年頃大弘寺より勧請し、これより五百メートル南（現在の観音櫓）に祭られていた千手観音様であり、この観音様が海水の侵入を防いで稲田を護ってくださったと、大正三年に現在の位置に御堂が建立され、以来毎年八月二十五日は潮塞記念の行事として祭事が継承されてきた。又潮塞観音は千手観音様が千手を広げて潮を防がれたと言い伝えられ、潮止観音でなく、潮塞観音といわれている所以である。」

平成十六年九月 潮塞観音保存会



<参考> ^{しおどめ}潮塞 観音古跡 (大正5年8月建立)



国土地理院電子国土 Web